

ではなく、観光や雇用への影響など、富良野経済にとっても大きな課題です。本市の販売農家戸数は平成20年で762戸から、25年には572戸になると推計されています。これは、経営不振だけでなく、後継者不在と経営者の高齢化が要因であり、富良野農業を支える担い手の育成は重要かつ喫緊の課題です。

■都市事例調査で意見交換

調査地は、鹿追町、幕別町、平取町、恵庭市で、いずれのまも農業者の高齢化が進み、若い後継者の不足が深刻な課題となっており、担い手育成に緊張感をもって取り組んでいます。

委員会における意見交換の新規参入者への対応では、研修から就農、更にその後の支援体制など、より有効で体系的な仕組みづくりが必要。富良野のネームバリューは他地域と比べると有利な条件にあり、より積極的に取り組むべきである。担い手育成は、行政、JA、その他農業関連機関が一体化した、温度差のない取り組みが必要であるなどの意見がありました。また、

経営者としての資質向上のための研修事業のあり方や、経営継承も議論のたたき台として取り上げ多岐にわたる意見が交わされました。

■市内新規参入者の現地調査

経営を開始している新規参入者3名、研修中の新規参入希望者3名について現地に伺い、聞き取り調査を行いました。就農に至った動機、目指す姿、資金力などは多様であり、画一的な就農システムでは対応できない事を感じましたが、就農している3名ともに地域に溶け込み自信を持って営農している姿は調査を進める上で勇気づけられるものでした。



新規就農農家現地調査

経済建設委員会都市事例

次に都市事例調査を報告します。

■鹿追町産業後継者対策

農業に限らず、商工業などに意欲を持って研修に取り組む原則20歳以上の独身女性を対象に産業研修生受入事業を実施。宿泊施設と交流施設を整備し、地元青年達との交流を通じ研修終了者108名の内19名が結婚し定住に至っており、花嫁対策としても効果が上がっています。

■幕別農村アカデミー

幕別町農業振興公社は、1町4JAで構成され、職員は町から3名、JA2名、非常勤職員1名、担い手専門アドバイザー1名で運営。事業内容は、担い手育成確保、農地流動化対策、農業情報システム構築の3つがあります。特徴的なのは幕別農村アカデミーで、習熟度に応じたコースがあり、中堅農業者の資質向上や新規参入希望者の就農に向けた研修等、担い手別育成システムとして機能しています。

■平取町新規就農者対策

新規参入希望の研修生の受入には、意欲、配偶者の協力、自己資金力などの選考を経て、農家研修、町の実践農場で栽培研修、3年目の秋に就農という流れになっています。課題は、トマトの施設栽培のため初期投資が過大である事、就農支援資金の借入れにおける連帯保証人の確保が難しい事などです。

■道央農業振興公社の広域対策

道央農業振興公社は恵庭・江別・千歳・北広島の4市と2JAで設立され、担い手別の育成事業、農地の利用調整事業などを業務としています。4つの担い手支援センターを農協内に置き、就農に関する全てをワンストップ窓口で対応しています。

議会改革特別委員会

■2回目のラジオ市議会

本年第1回定例会からスタートしたラジオ市議会は、引き続き第2回定例会も放送され、ア